

9月9日 山岳フィールド実習

【技術普及課】

きたさくぐんみよたまち あさまやま

9月9日（水）、長野県北佐久郡御代田町の浅間山国有林内において、筑波大学、信州大学及び静岡大学の学生17名に対し、カラマツエリートツリー特定母樹展示林の紹介や森林整備の説明、くくり罫の設置体験を実施しました。



カラマツエリートツリー特定母樹展示林は、令和5年に森林総合研究所林木育種センターから提供を受けた特定母樹由来の接ぎ木苗を300本（外に第一世代精英樹苗23本）植栽し、成長量を調査しながらエリートツリーの展示を行っています。将来的には採種園として活用する予定です。

今回参加した学生の多くは県外出身で、カラマツになじみがない様子でしたが、長野県では人工林面積の半分以上をカラマツが占めること、カラマツの種子が不足していることなどを紹介しました。展示林には、植栽してから3年で樹高が約3mに達している個体があることや、既に球果（松かさ）が着いている個体も見られることを説明すると、学生たちはその成長の早さに驚いていました。



次に、令和6年度にカラムツを植え付けた植栽地に移動し、森林整備について説明しました。間伐から主伐、再生林までの一連の循環を着実に実施することで、森林資源の適切な管理と持続的な利用が図られていることを紹介するとともに、再生林の課題に対応するため、植栽や下刈りなどの保育作業における労働負荷の低減に取り組んでいること、具体的には炎天下で行う下刈りは過酷な作業であること、成長の良い特定母樹由来の苗木の活用により、下刈り回数の削減が期待されていることを説明しました。



最後に、例年学生たちから好評をいただいている森林における野生鳥獣による被害の説明やくくり罠の設置体験を行いました。当国有林では、過去にはノネズミやノウサギによる被害も多くありましたが、現在はニホンジカの食害やツキノワグマによる樹皮剥ぎの被害が甚大です。

設置体験では、笠松式及びベアウォーク式のくくり罠について説明後、3グループに分かれて実際に設置していただきました。学生たちは、予想以上の力が必要であることに驚きながらも、熱心に取り組んでいました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、今回の実習を通じて、森林・林業や野生鳥獣対策への理解を深めていただくことができました。将来の進路に林野庁、そして中部森林管理局を選択していただければ幸いです。